

順位表 7/21現在
基本 22試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	50p	+23	39	16	A●
2	今治	39p	+6	30	24	A○
3	沼津	37p	+13	35	22	H● A●
4	富山	36p	+9	25	16	H△
5	相模原	36p	+7	22	15	A△
6	金沢	36p	+5	37	32	A△
7	FC大阪	33p	+7	22	15	A△
8	北九州	33p	+4	20	16	H●
9	福島	32p	+10	35	25	H○
10	松本	31p	+6	33	27	A○
11	岐阜	30p	+2	33	31	---
12	琉球	30p	-4	29	33	H△
13	八戸	29p	-1	19	20	H●
14	奈良	25p	-3	30	33	A● H△
15	長野	25p	-5	33	38	A●
16	YS横浜	25p	-9	18	27	A○
17	鳥取	19p	-17	21	38	A○
18	讃岐	16p	-10	17	27	H○
19	宮崎	16p	-14	20	34	H● A○
20	岩手	14p	-29	14	43	H○

次回HomeGame

第25節 vs.Y.S.C.C.横浜

8/25 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

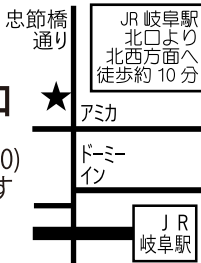
名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
串かつ
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	全17試合 (J2: 6試合、J3: 9試合、JFL: 2試合) 岐阜10勝 / 鳥取5勝 / 2分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 3勝1分3敗		
直近の対戦結果	2024/06/22 鳥取 2-4 岐阜 得点者: 田口裕也, 新垣貴之, 荒木大吾, 山内寛史 J3-18節 @ A x i s		
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/07/20 J3-22節@愛鷹 沼津 2-1 岐阜	2024/07/20 J3-22節@A x i s 鳥取 1-1 YS横浜
	岐阜	2024/07/13 J3-21節@長良川 岐阜 1-1 奈良	2024/07/13 J3-21節@プラスタ 八戸 1-0 鳥取
	岐阜	2024/07/06 J3-20節@いちご 宮崎 0-1 岐阜	2024/07/06 J3-20節@A x i s 鳥取 1-2 北九州

●今季も開幕からの好調が一転して急失速、天野賢一暫定監督にバトンタッチしてシーズン後半戦を戦うこととなったFC岐阜。7/13 (土) 第21節・ホーム奈良戦は、前半25分に#38 新垣貴之の先制点で岐阜がリードする。しかし、後半の決定機で追加点を奪えず、逆に奈良に同点に追いつかれてしまう。その後も決勝点を奪うことができず、1-1の引き分けに終わった。続く7/20 (土) 第22節・アウェイ沼津戦は、前半は完全に沼津のペースで進み、豪快なミドルで先制点も奪われる。しかし後半頭に選手交代をして岐阜が流れを掴むと、後半9分に#22 文仁柱のゴールで同点に。その後は一進一退の攻防が続いたが、終盤に早いリスタートから沼津に追加点を奪われてしまい、試合は1-2で終了した。

このリーグ戦2試合の結果、岐阜の順位は10位から11位へ下降。これまで2位 (=J2自動昇格枠) につけていた沼津が3位に後退し、今治が2位に浮上している。しかし、その今治も首位・大宮との勝点差は11と、大きく引き離されたままだ。一方の岐阜は、6位 (=プレーオフ出場圏)・金沢との勝点差が6と、さらに差が開いてしまった。ただし、3位・沼津は勝点37、6位・金沢は勝点36。7位・FC大阪が勝点30なので6位との間に差が生まれつつあるが、現時点では、このプレーオフ圏内争いには勝点29の13位・八戸までが射程内に入っていると見るべきだろう。まだまだ1試合の勝敗結果で順位が大きく変動する大混戦となっている今季のJ3。まずは、今日の試合で勝利と勝点3を得ることを目標として、少しずつ順位を上げてゆきたいところだ。

そして、7/8 (月) から8/21 (水) の間は、今季の第2ウインドー (登録期間) が開いており、夏の移籍期間だ。岐阜からは7/10 (水) に#25 和田樹樹が (現在JFLで首位を独走し、J参入の準備を進めている) 高知ユナイテッドSCに、7/17 (水) に#2 岡崎慎がJ2・ロアッソ熊本から、そして7/23 (火) には#9 山内寛史が (現在JFL3位の) ヴィアティン三重に、それぞれ期限付き移籍することが発表された。また、今節の後にはJ3も夏季 (オリンピック) の中断期間に入る。次の試合は約3週間後の8/17 (土) アウェイ八戸戦。この期間を有効に活用して、チームの弱点を捕う選手や新たな要素を加える選手を獲得し、そして十分な練習を積んで、さらにチーム力の強化が図られることを期待したい。

さて、その中断前の試合である今節の対戦相手はガイナレ鳥取。昨季は序盤から低迷したが、途中から指揮を執った増本浩平監督の手腕で最終順位は6位と盛り返した。今季は新たに林健太郎氏を監督に招聘。スタッフも (小谷野拓夢HC以外は) 刷新し、選手も大幅に入れ替えて臨んだ。序盤は7試合無敗など順位を7位まで上げたが、5月からは11試合未勝利で現在の順位は17位と低迷している。

鳥取との (J3での) 通算対戦成績は、岐阜の6勝3敗・16得点15失点。昨季のホーム戦・8/26 (土) 第24節では、序盤から試合を支配し、前半に2得点。後半にも1点を加え、退場者を出してしまうが3-1で勝利。そして今季前半戦の対戦であるアウェイ・6/22 (土) 第18節では、後半に3得点を挙げてリードするも2失点し、最後に#9 山内寛史のゴールで突き放して4-2で勝利。今節も油断すること無く、しっかりと勝ち切りたい。

鳥取で最も警戒すべき選手には、現在7得点の#18 田中翔太を挙げる。チーム総得点の3分の1を叩き出している大卒ルーキーは直近5試合でも2得点、そして岐阜戦でも1点を決めていた。今節は彼に仕事をさせないよう、岐阜のDF陣の奮闘に期待したい。また、#9 富樫佑太は、岐阜に在籍 (2019~2022年) した選手だ。その「凱旋」は岐阜サポーターにとっても喜ばしいことだが、今節は封じなくてはならない。一方の岐阜では、やはり一昨年まで2年間鳥取に在籍した#17 田口裕也、そして昨季まで2年間在籍していた#22 文仁柱の活躍に注目したい。

残念ながら、ホーム・長良川で7試合未勝利の岐阜。確かにホーム戦でもアウェイ戦でも勝点の大きさは変わらないが、やはりホーム戦で勝利しないと、クラブの興行としては良くないし、サポーターの熱気・盛り上がりにも欠ける。そしてチームとしても、勢いを付けるためにホームでの勝利は重要なはずだ。ホームの利を活かして、勝利のために戦い続け、走り続ける選手たちの背中を、僕ら岐阜サポーターの声援で後押ししよう。そして今節こそは、「HYPER CHANT」を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第21節】岐阜 1-1 奈良

●勝ち切れないなあ……いろいろともどかしい。新垣貴之の先制点の後、2点目が取れなかったのと、交代策がうまく嵌らなかったのが痛かった。個人的に「ん？」って思ったのは北龍磨→生地慶充の交代で、ボランチとして攻守にいい所を見せ、まだ脚も落ちてないように見えただけに、この交代はギャンブルじゃないの？と思ったものだが。

あとイ・ヨンジェは途中から入れるよりアタマから使った方が生きるタイプだなと。ただ田口裕也も今調子のいい状態。ボールを受けてクルッとターンする、あるいはクサビとなって周りの味方にボールを配球するといったプレーが本当に上手くなったと感じる。それなので、選手の起用法には悩ましいところもあるのかもしれないが。

失点のシーンはいいボールを上げられて、上手くアタマで合わせられたと。もう相手を褒めるしかない。

夏のウィンドウ（移籍期間）も開いた。何が何でも昇格のために更なる補強を目指すのか、それとも現有戦力で乗り切ると腹を括って今後の戦いに臨むのか。もうあんまり悠長に構えていられる時間はない。（岐阜の誇り）

●アウェイ2連勝の後にホーム八戸戦で負けて、アウェイ宮崎戦で勝ってからの、ホーム奈良戦。今季前半の対戦では逆転負けしたけれど、そのリベンジを果たして欲しいところ。だけど#5石田峻真と#29野澤陸が出場停止、#40川上竜も怪我なのかベンチ外で、DF陣の控えが厳しい状況。さて、試合は序盤から岐阜がやや優勢に試合を進めるけれど、決定機までには至らない。特に右サイドは、これまで#5石田が頼りだったから、上手く機能しない。これは厳しいかなあ…と想着たら、前半25分にPA内に上がったボールを#38新垣貴之がダイレクトボレーでゴール！#38新垣は徐々に調子を上げてスタメンにも定着しつつあるから、頼もしいですね（笑）。その後は奈良の攻勢を凌いで前半終了。このまま後半は、何事も無く淡々と時間が過ぎてくれたら…と僕は思ってたんですが（苦笑）、現実はその許してくれなかった。前半の奈良は少し動きが鈍いなあと思ってたんですが、（それこそHTに修正したらしく）徐々に勢いを増してくる。そして、それを凌ぎながら岐阜も攻撃を繰り返す。そこで#11藤岡浩介と#99イ・ヨンジェが2対2の局面を作り出したら、そして#11藤岡がPAで絶妙のパスを出したら、そりゃ追加点が決まると思うじゃないですか…（溜息）。僕が思うに、#99ヨンジェってスタメン向きの選手なんじゃないかしら。途中出場だと、試合の流れに入りきれないタイプってあるみたいだし。んで、決定機を外したら相手に流れが渡ってしまうのは、サッカーでは良くある話で。さらに攻勢を強めてきた奈良に対して、徐々に足が止まってくる岐阜の選手たち。失点のシーンも、完全に時間を与えてしまっただけでフリーでクロスを上げさせてしまっていたし、ゴール前に相手選手数名が飛び込んできてたし。結局、1-1の悔しい引き分け。まあ勝点1が獲れたのをヨシとするべきなのかもしれないけれど、やっぱり悔しい。なんでホーム戦で勝てないのかなあ…選手たちの「勝ちたい」という気持ちが、逆に消極的というか安全なプレーへの判断に傾かせているんだろうか。でもそれは、自分の局面では失敗しないのかもしれないけれど、チーム全体としては失敗に繋がってしまうことが多いと僕は思う。それに、僕らは選手の消極的なプレーを見に来ている訳ではない。最後までひたむきに積極的に戦って、そしてホームで勝利する姿を、今度こそは見せて欲しい。（ささたく）

●う〜ん、またしても奈良に勝てず。どーして、こうなるの？とアタマを抱えなくなったりするけれども、正直、「奈良の方が出来がよかったからじゃないかな？」という思いも……。まあ、要は「決めるべきところで決めきれないから。」って話ですかね。多少流れた……と言ってしまう言えば言えなくもない。そういう見方もあるといえはあ……かもしれないけれども、あんなに優しく丁寧なコースケのパスを（確かに利き脚では

なかったかもしれないが）粹に飛ばせないようでは勝てる試合も勝てない。メインスタンドにいたので仰向けになることは出来なかったけれども、直後のコースケの姿は、まさにボクの心境そのものだった。あいちゃんなら利き脚だったなあ……。なんとか、結果が出せるといいね。がんばれ、ヨンジェ。それにしても、この試合のアウェイ・ゴール裏。アレは本当に奈良のサポさん達だったのかな？例の『念仏踊り』、アッコちゃんのチャントとピッチに向き合わない応援がなかったように思うんだけど。聞こえなかったのはボクだけなのかしらん？もしかしたら、ホームでの一般民衆がアノ踊りをやるだけで、アウェイに進軍する尖兵達はやらないのかな？今回、来襲したのは『興福寺の僧兵』だったのかもしれない。そら、荒ぶるワ、強いワケだわ。でも、狩衣風の衣装を身につけた、奈良の名物サポさん見かけたんだけどな。やっぱり、やんごとなき都人の末裔さん達の振る舞いは、不破の関以東の民草には計り知れないモノがあるのかも？（ぐん、）

●野澤と石田の出場停止でどうやりくりするのか？と思っただらコーダイをサブに。なるほど、ボラのサブにもCBのサブにも使える、ということね。かつて、ベンチ入り選手が5人までだった頃はこうした「ベストポジションがベンチ（交代で入れるポジションが複数あるユーティリティー持ち）」って選手は重宝されたんだよね。

でも、実際はそうじゃなかった（苦笑）。ホーム沼津戦での、試合終了近くの「火を消す」どころか「火にガソリンを霧吹きで吹きかける」ような大惨事の要因だったゲンちゃんがスタメン（かわりゅーはケガなのかな）だから、コーダイが彼のサブでしか使えない。とはいえ、リョーマ→オイちゃんの交代は早過ぎると思った（この試合のリョーマの汗かき役は高評価）し、いにしへのアニメ「タイムボカン・シリーズ」のごとき『様式美』と化したユウヤ→ヨンジェの交代でゴールの気配はだいぶ薄くなった。コースケのあのプレゼント・パスをキチンと粹に蹴れないのは、試合に使っていい状態じゃないでしょ。きっと、そういう契約なんだろうな、天野さんも使いたくて使ってるんじゃないだろうな、と好意的なため息をつくことにするよ。最後のアイちゃん投入はヨンジェを下げてくれた方が納得出来ただけだね。

かくして1-1のドロー。奈良戦の初勝利はお預けです。でも、初勝ち点は取れた！気分は前向き！そうだ、そう思うことにしよう！（吉田鑄造）

【第22節】沼津2-1 岐阜

●小中学校は夏休みに入って最初のゲーム、バスツアーも開催され、多くのサポーターと共に愛鷹に乗り込んだFC岐阜であったのだが。

とにかく前半は目を覆いたくなる内容。沼津は中盤をコンパクトに、高い位置からボールを奪いに来て、奪ったら早いドリブルと豊富な運動量で一気にバイタルエリア付近まで攻め上がってきてシュートを打ってくる。岐阜は時折スピードに対応しきれない場面も見受けられ、ボールを奪っても次の攻撃に繋がれない。そんな中、沼津・菅井拓也のミドルシュートで先制を許す。遠い位置からの思い切りがいい、対戦相手ながら素晴らしいと言わざるを得ないシュートだった。前半終了して0-1。しかしながら前半だけで2点3点取られていてもおかしくない内容で、これはどうにもならんと暗澹たる気持ちにさせられてしまった。

後半、岐阜は北龍磨、藤岡浩介に代えて、生地慶充、荻野渥大を投入。ボランチを務めていた西谷亮を一例上げてトップ下に近い位置に配し、4-2-3-1に近いシステムに変更。するとこれが功を奏したのか、岐阜が中盤でボールが繋がるようになってくる。そして左サイド、荒木大吾からのボールを受けた文仁柱が左足でシュートを決めて追い付く。綺麗に繋がってフィニッシュまで持っていくことができた。

その後は双方一進一退、岐阜はCKのボールが直接ポストに当たる不運な点もあったりしたが、沼津に勝ち越し点を奪われてしまう。ショートコーナーを仕掛けられて、一瞬集中が切れてしまったか、大外にいた沼津の選手がフリーだった。2点ともGKが防ぎきれないシュートだったとはいえ、沼津にシーズンダブルを喫する結果に。

梅雨も明け、暑さ厳しい時期に差し掛かって来た。体調管理もむづかしい状態ではあるが、プレーオフ圏内に食い込むには負けを重ねるわけにはいかない。(岐阜の誇り)

●梅雨も明けて蒸し暑い季節。とはいっても、風が吹いて岐阜よりは過ごしやすい沼津。ようやく照明設備も改修され、はじめてのナイター……というか、もうJ3も20チームに達するんですし近年の酷暑は洒落になりませんから、ライセンスではナイター設備を必須条件でお願いします(苦笑)。

さて、試合は序盤から沼津が圧倒的な優勢で進む。球際の競り合いでも、選手の連動でも、ボールへの反応でも、沼津の方が上手。一方の岐阜は、どうにもボールを出したら相手任せというか、ボールの行方を見ていて味方を孤立させてしまう場面が目についた。パスサッカーって言うても、主にボールだけ動かしてりゃ良い訳じゃ無いと思うんですけどねえ……(溜息)。んで、沼津は中盤でフリーになったところを見逃さず、強烈なミドルを撃たれて失点。うーん、あれは撃った相手を誉めるべき見事なシュートなんだけど、ウチでもあいうゴールが見たいよなあ……(苦笑)。そして、岐阜はほとんど良いところが無いまま前半終了。このまま厳しい試合が続くのかと思っていたら、HTに檄が飛んだのか、後半アタマからボランチ2枚替えて、#16西谷亮を1つ前に持ってくる戦術変更。これが功を奏して、岐阜も局面で勝てるようになり、ゴール前に侵入できるように。すると後半9分に、PA前の混戦から出たボールがPA内に侵入した#22文仁柱に渡り、そのままシュートを決めて同点！これでさらに勢いが出てきた岐阜。その後の、沼津のハンドがPKになってたら……と思わずにはいられないんですが、これもまたサッカーです(苦笑)。

だけど、岐阜の流れだったのに、再び勢いを取り戻す沼津。今季の沼津は、後半に#19齋藤学と#20川又堅碁を投入して攻撃のギアを入れるという“必勝パターン”があって、それが結果を出しているから勢いがある。試合終盤の2失点目も、素早いリスタートから思い切りの良いシュートを撃たれてしまって。疲労もあったと思うけれど、岐阜の選手たちが反応できてないもんなあ……(溜息)。2つのゴールとも、積極的

かつ思い切りの良いプレーにやられた感じ。一方の岐阜は、追加点が狙えたけれど、そこで撃たずにパスを選択して失敗した場面がいくつか。これが上位チームの勢いと言うべきなのか。あるいは、メインスポンサーの招待試合で(沼津としては)大勢の観客が入った試合だったからなのか。それにしても、ゴール裏の声援では圧倒的に岐阜が勝ったと思うんだけど、かなり沼津も観客が入るようになったなあ。シャトルバスも2路線で出していたし、これがJ2昇格を狙うクラブの勢いなのか……とったりもしました。(ささたく)

●今季3度目の沼津戦。点差的には『惜敗』と言ってもいいんだろうけど、5点取られたホーム戦よりも『格差を見せつけられた』ような気がしないでもない。積み上げたモノがある者とそうでない者の差、しかも、その蓄積を基にさらに向上する余地がある者とそうでない者の違いが随所に現れてたような気がする。そうやってしまうのは余りにも自傷的に過ぎるかな？

決められた2点、特に先制点はゴラッソだった。ゴッツにはノーチャンス。まあ、余りにもフリーにさせ過ぎたと言えなくもないが、相手をホメることにする。逆にインジュのゴールも素晴らしかった。観戦後にネガティブな気持ちにならなかったのは彼のおかげだな。お膳立ては大吾だよな？さすがです。ホント、ウチに来てくれてありがとう！カレがいなかったら……と思うとゾツとするよ。

さて、次節はホーム・長良川。この試合が終われば、約半月のインターバル。熊本からレンタル移籍の岡崎クンは出てくるのか、来ないのか。新たな移籍はあるのか、ないのか？スタメンは？システムは？変わるのか、今のままなのか？楽しみだね、いろいろと。(ぐん)

夏の移籍ウィンドウが開きました(7/25時点)

●既に、いくつかのチームで動きが出ています。岐阜はOUTが2名(いずれも期限付)。和田侑樹がJFL高知へ、山内寛史はJFL三重へ。2人とも、いまの指導陣から高い評価を得ているとは言い難い使われ方ですし、移籍先はJFL上位チーム(7/24時点で1位と3位)。ともに来季のJ3ライセンス申請済。2人とも『昇格の立役者』になれるかもしれない。がんばれ！INも2名(これも期限付)。J2熊本からDF岡崎慎が、J2水戸から中山開帆が加入。岡崎はJ1での出場経験もしっかりあり、なにより『若い』。一方、中山はJリーグ10季めのベテランだ。期待しています。(吉田铸造)